



いつの時代も「お出かけ」出来る楽しさを

■緊急事態宣言が解除されて1ヶ月以上が経ち、県をまたぐ移動も再開された。これまでの賑わいを取り戻すにはまだ時間がかかると思われるが、今後に向けて大きな一歩を踏み出したと言える。今回の事態を通じて多くの人が痛感したのは「お出かけする場所がなくなると、本当につまらなくなる」ということではないだろうか。最も多くの人で賑わうはずのゴールデンウィーク時に外出の自粛が求められ、ほとんどの商業施設が休業を余儀なくされた。「自粛疲れ」という言葉が生まれたように、お出かけが出来ないことは可能であれば2度と経験したくない。今後、新型コロナウイルスによる影響は働き方や生き方・考え方まで様々なところに変化をもたらすと予測されるが、「お出かけ出来る」ことの大切さ・楽しさはいつの時代もあり続けるものだ。それではコロナ後のまちづくりはどうあるべきだろうか。

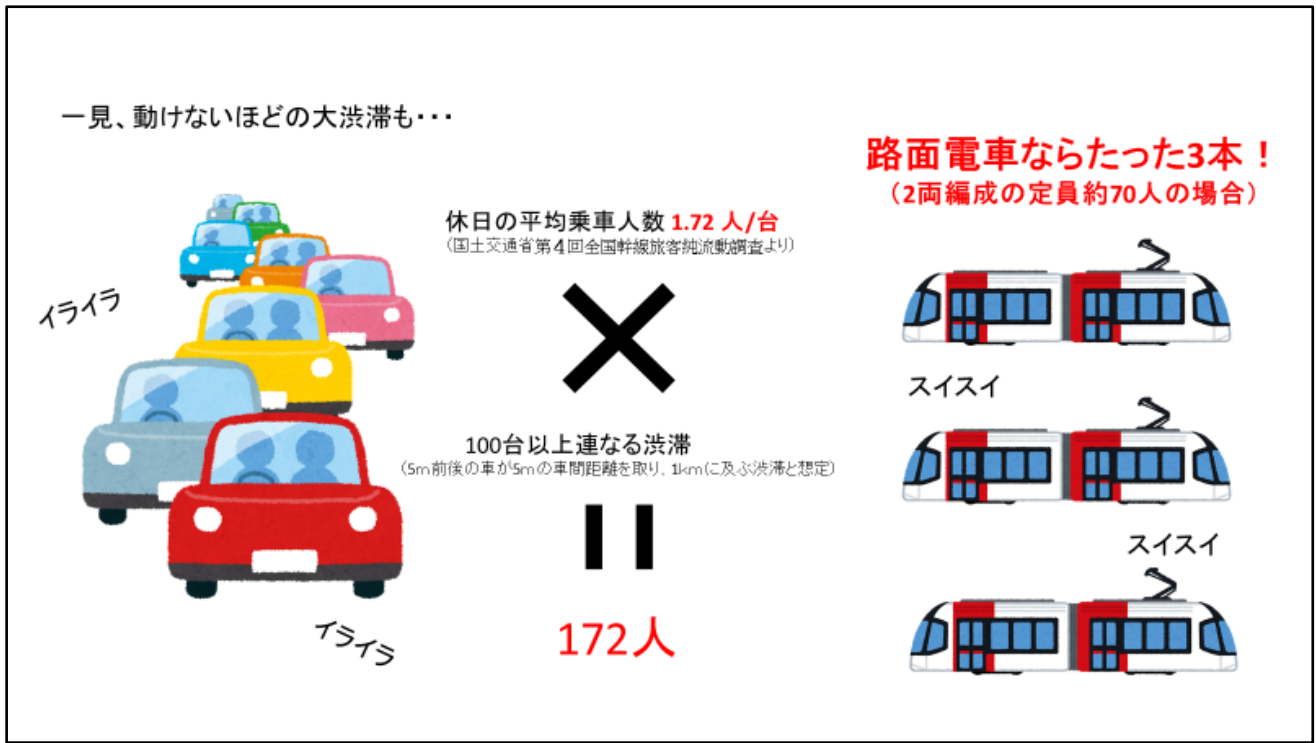
■まず移動手段についてはこれまでの公共交通の利用を控え、車での移動を考える人が増えたという調査結果が上がってきている。実際に公共交通の利用者数は前年同時期と比べると現在でも約半数という極めて厳しい状況が続いている。しかし、もし全ての人が自家用車で移動するようになってしまったら岡山市内の道路はたちまちに飽和状態になってしまう。現在でも、通勤時間帯の渋滞には多くの人がかんざりしているはずだ。また車中心の生活は排気ガスの問題や、歩かなくなることによる健康状態への影響など以前から指摘されていた負の側面があることも注意が必要だ。

■新型コロナウイルスが今後、まちづくりにどのような影響を与えていくかは未知であるが、安易に「密を避けるために車で移動する」というのは危険だと考える。渋滞やそれに伴う、環境の悪化や健康問題など、リスクが多すぎるからだ。仮に自家用車へのシフトを許した場合、右の写真の状態がさらに激しくなり、道路は車で埋まることになる。コロナウイルスで深刻な被害を受けた欧州では車への過度なシフトを抑えるため、道路の拡充ではなく自転車専用道路の拡充が行われたりしている。あくまで、街中へお出かけ出来る楽しみを作り、明るく開放的なまちづくりを目指すべきだ。そのためには車での移動だけではなく、公共交通も感染リスクを下げられるようにバージョンアップをしたうえで、利用を促進していく策を行政や市民も一体となって考えていく必要がある。そうすれば土地を有効に活用することができ、今まで以上に「密」を避けて明るく開放的な街中が実現できると考える。街中を車と駐車場で埋めたくはない。

(写真はコロナ前に撮影した、とある休日の岡山市内の様子。駐車場が満車で右折レーンが詰まっている)



■「密」を避けて車で移動するのが、果たして正解か？



公共交通への転換で余った
道路空間の再構築を！

■オープンカフェにエコな公共交通・・・新しい生活様式を取り入れつつ、街をおしゃれにしよう！



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

